

《 巻末の付録USBメモリに詳細版を収録 》

第12部

医療・災害医療現場での情報技術活用技術の研究(概要版)

奥村 貴史、前田 貴匡、中河 清博

第1章 はじめに

Medicri (Medical Crisis) WGは、2010年4月より活動している、医療崩壊問題や災害医療に対する情報技術の寄与について検討するワーキンググループである。設立以降、医療の情報化を担う人材育成、WIDEプロジェクトにおける医療系問題の啓発活動、健康危機管理における情報技術の観点からの支援等を行って来た。今年度も、医療の情報化を担う人材育成企画を中心に活動を行った。

第2章 人材育成

医療崩壊の背景にある医療従事者の労働環境を改善していく上では、医療用情報システムの品質向上が求められる。そのためには、医療と情報の双方に通じた人材の育成が欠かせないが、わが国には、「医療情報技師」という実務者の養成制度はあるものの、医療の情報化における研究開発を担う人材育成のための枠組みがほとんどない。そこで、WIDEプロジェクトにおける啓発活動の一環として、「情報系学生のための医学概論」と称する情報系人材に対する医学教育を継続して行った。

第3章 災害への対応

災害医療への貢献としては、保健医療行政における危機

管理用情報システムに対する技術支援を継続して行った。また、防衛、災害派遣方面の医療用情報システムについて関係者との情報交換を重ねている。今後、震災時に生じた混乱の反省を生かし、状況の改善に取り組んで行きたい。

第4章 医療従事者からのフィードバック収集

本WGの設立趣意書に記されている医療従事者からのフィードバック取得体制の構築に向け、高性能な「診断支援システム」を公的な枠組みでインターネット上に公開し、そのユーザーグループをWGが運営する手法について準備を進めた。

第5章 おわりに

今年度は、WG設立から4年目となる。医療崩壊問題への対応や災害医療への支援に際しては、人材の少なさからくる制約が少なくない。今後は、WG活動を広報していくことにより、より多くのWIDEメンバーからの支援を頂きながら進められるような工夫が求められる。また、昨年度のような医療の情報化を担う人材育成のためのワークショップの開催により、継続的な人材育成が望ましい。来年度も、より大きな研究予算の獲得等を通じて、研究教育活動の拡大を図りたい。